



CONTENTS

◆後援会会長あいさつ	1
◆教育学部長あいさつ	2
◆トピックス	
①新学部長に秋重幸邦教授	2
②教員就職率全国第7位に!!	3
◆学生の年間スケジュール紹介	4
◆卒業生の声	8
◆後援会活動の概要	11
◆後援会幹事名簿	12



夢を叶える

後援会会長 勝部 宏悦

島根大学教育学部後援会の皆様には日頃より後援会活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。平成23年度から会長を務めさせていただいております勝部と申します。皆様のお力をお借りして本後援会がますます充実するよう熱意をもって取り組んで参りたいと考えておりますので、ご指導ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

本後援会は、「島根大学教育学部の発展充実に寄与し、在学生の教育に関し、学部と協力すること」を目的に昭和27年に活動が始まったと伺っております。以来60年にわたり学部長先生を始め教育学部関係者、活動を支えてこられました諸先輩の方々のおかげにより、学生が実り豊かな生活が送れるよう支援を続けることができいております。具体的には、教育事業の実施や就職を目指す学生の支援、また学生が勉強しやすいように環境を整えたり、学生の国際交流活動や課外活動など様々な活動に係る経費の支援を行っております。

さて、昨年は暗いニュースが多い中、日本女子サッカーチームがワールドカップで優勝したことが明るいニュースになりました。キャプテンの澤選手はたびたび「夢は見るものでなく、叶えるもの」と言っていましたが、ついに夢を実現し私たちに大いに希望を与えてくれました。島根大学教育学部では、学生たちの「教師になるという夢」を叶えるために、平成16年度に全国で初めて「教員養成に特化した専門学部」として新たなスタートを切られ、独自の教師教育

プログラムを構築して教員養成教育の改善に取り組んでおられます。その中の「1000時間体験学修」は、学生たちが学校だけでなく地域のさまざまな場所で、地域の人たちと直接触れあうことで、変わりゆく教育現場に適応した教師になるための教育プログラムとして非常に有効なものだと思います。私自身、真剣に取り組む学生の姿を見て、地域の人たちの期待感が大きくなって来たように思います。社会に貢献する学生の姿は何とも頼もしく、教育現場でも活躍する姿が容易に想像できます。

こうした教育学部の明確な目標と方針は確実な成果となって現れ、平成23年3月卒業者の教員就職率が一気に全国7位になったと伺いました。今や入学したときから大学生の最大関心事は就職です。特に教員の採用数が増加しない山陰両県への就職希望者が多い当学部で学ぶ学生にとって、教員就職率が上昇したことはとても励みになります。学生の努力はもちろんですが、就職支援室をはじめとした教職員の皆様のご努力に心より感謝申し上げます。

後援会としましても支援を拡充し、学生たちが将来の夢、教育への意欲と情熱を失わないように応援してまいりたいと思います。また、後援会の皆様には、職場あるいはお住まいの地域で1000時間体験学生を受け入れるなど、今後も様々な形での応援をお願いしたいと思います。皆様のご理解を賜り、ますます充実した後援会活動ができますよう今後ともご協力をお願い申し上げます。



確かな教師力の育成を目指す 島根大学教育学部

教育学部長 秋重 幸邦

島根大学教育学部後援会員の皆さまにおかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。また、平素から、本学部の教育活動や就職支援活動に多大のご理解とご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、学校現場において教員が対応すべき課題は、多様化し増える一方であります。学力の向上への課題、生徒指導上の諸課題、特別支援教育の充実、外国人児童生徒への対応、ICTの活用など、具体例を上げれば切りがありません。一方、今後10年間に教員全体の3分の1が退職しますので、経験の浅い教員が大量に誕生することになります。

このような状況を受け、文部科学省は、中央教育審議会に「教員の資質向上特別部会」を設け、基本制度ワーキンググループなどで精力的に審議を行っています。本学部の元学部長の高岡信也教授も委員として参加され、数々の提言をなされています。審議経過には、「教員養成の修士レベル化」、「新しい教員免許制度の創設」、「教育委員会と大学の連携・協働」などと並んで、大学における教員養成の在り方に対しても、教員としての高度な専門性や社会性に加え実践的な指導力が身に着くよう、改めて見直す必要があると、指摘されています。

これまで、本学部は、「1000時間体験学修」を推進力に、「プロフィールシート」、「面接道場」、「学内資格認定制度」といった特色ある教育プログラムを充実させ、教職員一丸となった教員養成教育の改善に取り組んでまいりました。文部科学省の「教育GP」の支援を受け、2008年から2010年に行った「環境寺子屋」の活動は高く評価され、新たに

特別経費の予算が下りています。

本学部のこうした活動の成果が教員採用率の上昇に明確に現れてきています。本学部の2010年度卒業生の講師任用を含む「教員就職率」は67.3%で、全国の国立系教員養成大学・学部44校の中で7位であったことが、文部科学省のまとめで分かりました。データが残る過去10年で最高となり、2004年に教員養成に特化した学部改編して以来、順調に就職率は伸び続け、初めてのトップテン入りを果たしました。このことは、地方大学のハンデを乗り越えた快挙として、新聞等で大きく報道されているところでもあります。

しかしながら、本学部の改革はまだ緒についたばかりです。本学部を巣立った卒業生が、それぞれの学校現場の中で信頼できる教員として認知され、活躍しているかどうか、就職率に劣らず重要な指標になります。島根県や鳥取県の教育委員会との連携を一層強化し、協働して様々な形で教員研修に携わっていきたいと思っています。本学部が「教員養成の理論と実践の拠点」として、地域社会や教育界に広く深く認識されるまで、本学部の不断の努力は継続します。

最後になりましたが、2012年度に入学された学生の保護者の皆様、島根大学教育学部によろそおいでいただきました。子供様たちの「教師になるという夢」の実現に向け、我々教員は、一丸となって、誠心誠意支援していく所存です。保護者の皆さまの本学部へのご支援、よろしくお願ひ申し上げます。



新学部長に秋重 幸邦教授

島根大学教育学部では、伊藤 豊彦学部長の任期満了に伴い、次期学部長として秋重 幸邦教授を選考しました。任期は、平成24年4月1日から平成26年3月31日までの2年間です。

秋重 幸邦(あきしげ ゆきくに)教授

専門分野 固体物理学

所属 自然環境教育講座

役職歴 企画・財務担当副学部長,教育研究評議会評議員

全国第7位に!!!

—平成23年教員就職率—

島根大学教育学部の平成23年3月卒業者の教員就職率は67.3%となり、文部科学省の調査によると、国立の教員養成系大学・学部44校のうち第7位になりました。
昨年度の54.2%（第30位）から13.1%も上昇しました。

【国立の教員養成大学等の教員就職率上位10校（全国平均62.0%）】

順位	大学名	平成23年 教員就職率	順位	平成22年 教員就職率
1	鳴門教育大学	77.90%	1	78.30%
2	兵庫教育大学	74.70%	5	71.90%
3	愛知教育大学	71.80%	3	74.30%
4	京都教育大学	70.10%	12	64.00%
5	岐阜大学	69.50%	20	60.80%
6	信州大学	68.40%	7	69.30%
7	島根大学	67.30%	30	54.20%
8	高知大学	67.00%	14	63.50%
9	茨城大学	66.70%	15	63.00%
10	金沢大学	66.30%	23	59.00%
10	三重大学	66.30%	13	63.80%
10	奈良教育大学	66.30%	4	74.30%

◆学部長コメント

12月27日、文部科学省から教員養成大学・学部の平成23年3月卒業者の就職状況（教員就職率）が発表されました。それによりますと、本学部の就職率は、表のように、昨年度の54.2%を大きく超え、「67.3%」で全国第7位になりました。

教員就職率の向上を目指した平成16年度の改組以来、目標としていた60%台を突破したこと、なおかつ、全国7位の位置を占めたことに対して、皆様とともに素直に喜びたいと思います。また、「教師になる」ことを目的に本学部の門をたたき、教師力を高めてくれた学生の皆さんと就職支援室をはじめとして努力を惜しまず学生諸君をサポートしていただいた教職員の皆様に心から厚くお礼を申し上げます。

教員の大量退職時代に入ったとはいえ、必ずしも採用者数が増加しない島根・鳥取を基盤とする本学部が、大都市圏にある大学・学部と肩を並べる水準に達したことは、1000時間体験学修をはじめとして、これまで本学部が取り組んできた様々な教育改善が実を結んだ成果であると考えています。しかしながら、私たち学部の“挑戦”はこれからも続きます。単年度の成果に満足することなく、これを維持・向上させるべく、今後とも引き続き皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

入門期セミナー I・II

《入門期セミナー I》

初年次教育プログラムの一つである1泊2日のセミナーです。1000時間体験学修プログラムを理解し、4年間の大学生生活の見通しをもつことを主な目的としています。4年間を共に過ごす仲間や学生スタッフの先輩との2日間の関わりを通し、幅広い人間関係を築くことができます。1年生にとって、大学生活への期待がふくらむ有意義なセミナーです。

《入門期セミナー II》

入門期セミナー II は、主専攻または副専攻を決定するためのプログラムであると同時に、教育学部で開講されている幅広い授業内容を体験する「教育学部入門」としても位置づけられています。これまであまりなじみのなかった分野の講義にも積極的に参加して、教育学部学生としての教養を深め、専門分野への関心を高めてください。



大学祭

松江キャンパスでは「凧風祭」という名称で毎年10月に開催されています。島大生としての自覚を持ち、地域の方々や留学生との交流を深めることや、島根大学の知名度を対外的に向上させることを目指しています。各種の研究発表や、サークル・専攻による模擬店の出店、芸人やミュージシャンのライブステージなど、数多くの催しを、学生実行委員会が自主的に運営しています。



4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◎入学式・オリエンテーション ◎入門期セミナー I											◎基礎体験交流会
	◎入門期セミナー II					◎スタートアップセミナー					
	◎専攻決定ガイダンス	◎学校教育実習 I	★教職志向・進路調査								
	◎学校教育実践研究 I		◎主専攻決定								
◎一般教養ちからだめし ◎基礎体験合同説明会 ◎基礎体験活動開始						◎在学生ガイダンス					
						◎副専攻仮決定 (年度末に決定)					

基礎体験活動

必修の110時間（基礎体験セミナー・介護等体験など）と選択の400時間の時間認定が必要です。選択の活動では、地域のイベントや社会教育施設の活動、小・中学校での学習支援など、多様な活動に参加できます。まずは、興味・関心のあるものから参加し、体験活動の魅力を感じてください。



学校教育実習 I / 教職志向・進路調査

学校教育実習 I (前期・20時間)

附属学校園で5日間、午前中は授業観察を行い、午後は大学で観察のまとめと振り返りを行います。実習後には第1回教職志向・進路調査を紙媒体とWebによって行います。

専攻決定

専攻決定に関しては、どのような入試形態で入学したかによって選択できる専攻が異なります。専攻決定のためのプログラムは、「入門期セミナー II」と「学校教育実習 I」です。また、提出すべき書類は以下の3つです。

- ①入学時の新入生オリエンテーションの際に提出する「専攻決定予備調査票」
- ②7月の専攻決定希望調査の際に提出する「専攻希望調査票」
- ③9月の在学生ガイダンスの際に提出する「副専攻決定希望調査票」

スタートアップセミナー

入学時からの基礎体験活動の取り組みを振り返る、1年生対象の基礎体験セミナーです。体験時間の確認や活動参加への心構えや手続きの再確認を行います。また、小グループに分かれて体験発表会などを行い、今後の活動をさらに充実させていくためのセミナーです。



学校教育実践研究 I

学校教育実習 I と連動して開講されるコア授業科目です。幼稚園児から中学生までの子どもを「成長」「発達」の総体として理解し、子供たちとの豊かな関わりに必要なプレゼンテーションスキルを磨きます。

学校教育実習Ⅱ

教育実習Ⅱ (通年・20時間)

附属学校で行う教科(保育)指導を中心とした観察実習です。主専攻に対応する校種・教科の授業参観・授業協議を行い、ポートフォリオを作成するとともに模擬授業演習等を行うことによって授業(保育)設計の基礎を培います。3年生で行う実習Ⅲを履修するためには、2年生終了時まで以下表の中に示している履修資格を満たしている必要があります。

《実習Ⅲの履修資格》

【単位】

- ・専門基礎教育科目6単位以上
- ・学部共通科目6単位(教職ガイダンスを含む)以上
- ・主専攻専門科目20単位以上(条件あり)

【教育体験活動】

- ・基礎体験領域(選択)120時間以上
- ・学校教育体験領域70時間以上
- ・臨床・カウンセリング体験領域30時間以上(コアとなる授業科目を含む)

充実期セミナー

2年生対象の基礎体験セミナーです。これまでの基礎体験活動を振り返り、他者と比較しながら各自の成果や課題を明らかにします。また、各自の取り組み傾向をもとにグループを作り、それぞれの課題にせまるための協議等を行います。学内資格を取得している先輩からのアドバイスを受けることもできます。



教師力パワーアップセミナー

教師力パワーアップセミナーは教員採用試験への対策や教職をより深く理解するための取り組みです。3月の「宿泊研修」には2年生から参加できます。採用試験の合格者や現任教員である先輩との交流会もあります。12月には「教員採用試験合格者体験報告会」もあります。(希望者のみ)



4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
◎在学生ガイダンス ◎健康診断 ◎介護等体験事前指導					◎充実期セミナー ◎プロフィールシート(PS)作成説明会 ◎PS返却 ★PS入力(Web) ★PSまとめ(Web)			◎教員採用試験合格者体験報告会		◎基礎体験交流会	
					◎在学生ガイダンス		◎C系・G系		★教職志向・進路調査		◎教師力パワーアップセミナー
◎学校教育実習Ⅱ(通年)											
◎介護等体験(通年)											

介護等体験

特別支援学校及び社会福祉施設(老人ホーム等)であわせて7日間行います。

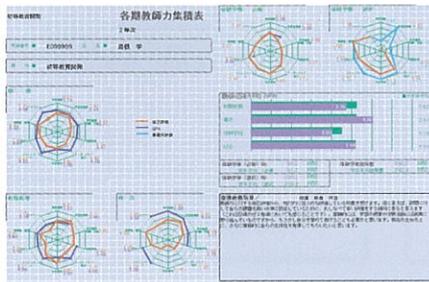
<内訳>

2日間:島根県又は鳥取県内の特別支援学校での体験
(内容)授業の補助,学校行事等校務全般にわたる補助等の体験

5日間:島根県内の社会福祉施設(老人ホーム等)での体験
(内容)介護・介助,障がい者等の話し相手や散歩の付添い等の交流の体験,掃除や洗濯等受入れ施設の職員に必要とされる業務補助等の体験

《体験参加資格》

- ・「介護等体験」の説明会にすべて出席すること
- ・「介護等体験」の事前指導を受講すること



C系・G系

C系とは個人(子ども・保護者)に対する支援(Counseling)を想定した実習で、G系とは学級集団形成など集団における支援(Group approach)を想定した実習です。C系の授業では相談場面を想定したロールプレイを通して、よりよい聞き方や相手の気持ちに添う関わり方について学びます。

G系の授業では自分や相手の特性に関する気づきを促すグループ活動を通じて、よりよい学級集団づくりの技能を学びます。



プロフィールシート

大学での学びの状況は、履修単位の成績評価だけで計ることのできない広がりをもっています。プロフィールシートは、そのような学生一人ひとりの学びの成果と軌跡を記録する「カルテ」です。プロフィールシートの作成は、4年間で3回、大学生活の節目の場面でを行います。その目的は、教師に必要な能力の総体である「教師力」の修得状況を、複数の評価視点(自己評価,他者評価,客観的評価)によって可視化し、学びの状況とこれからの目標を確認することにあります。

学校教育実習Ⅲ・Ⅳ

学校教育実習Ⅲ (前期・40時間・1単位)

主専攻に対応した教育実習です。附属学校の授業(保育)観察を通して、授業(保育)を「教師と学習者のコミュニケーションの総体」として把握し、学校教育実習Ⅳに必要な授業実践力の基礎を培います(人間生活環境教育専攻で幼稚園一種免許型の学生は、私立幼稚園で80時間・2単位の実習を行います)。

学校教育実習Ⅳ (後期・160時間・4単位)

主専攻に対応し、授業実践に軸を置いた教育実習です。学習指導に力点を置くとともに、道徳、特別活動等にも取り組みます。学習集団の形成や学級運営に係る実践的トレーニングを行い、教職へのより深い理解と基礎的な実践力の育成を図ります(人間生活環境教育専攻で幼稚園一種免許型の学生は、公立幼稚園で120時間・3単位の実習を行います)。



教師力パワーアップセミナー

教師力パワーアップセミナーは教員採用試験への対策や教職をより深く理解するための取り組みです。3月の「宿泊研修」に始まり、4～7月には隔週で採用試験の面接対策、採用試験後の12月には「未来へ向けて」とタイトルをつけ、卒業後の教員生活ですぐに必要なスキルを研修します。採用試験合格者や現任教員である先輩との交流会もあり、不安や悩みを解決できるセミナーです。



実習 Semester

3年生の後期を実習 Semester とします。この期間に教育実習Ⅳ・Ⅴを行います。実習を行わない期間を活用して特別に用意された基礎体験活動を行います。公立小中学校・幼稚園に教育体験に行くことができ、教育実習とこの学外教育体験を往復させることによって、より幅広い教師力を身につけることが期待できます。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
○C系・G系				○実習 Semester							
○学校教育実習Ⅲ				○学校教育実習Ⅳ				★教職志向・進路・取得予定の免許状調査			
★教職志向・進路調査				○在学ガイダンス				○学校教育実習Ⅴ			
○在学ガイダンス				○在学ガイダンス				○応用期セミナー			
○健康診断				○在学ガイダンス				○プロフィールシート(PS)作成説明会			
○学校教育実習研究Ⅱ				○在学ガイダンス				★PS入力(Web)			
○学校教育実習研究Ⅱ				○在学ガイダンス				○PS返却			
○学校教育実習研究Ⅱ				○在学ガイダンス				★PSまとめ(Web)			
○学校教育実習研究Ⅱ				○在学ガイダンス				○教員採用試験合格者体験報告会			
○学校教育実習研究Ⅱ				○在学ガイダンス				○教師力パワーアップセミナー			

学校教育実践研究Ⅱ

学校教育実習Ⅲ・Ⅳと連動して開講されるコア授業科目です。主専攻に対応する校種・教科の授業実践に焦点化し、学習者理解を基本にした授業分析、教材研究と教材制作のトレーニング、学習指導案作成と模擬授業を行います。また、事後指導では、自らの実習を深化・発展させるためのふりかえりを行います。

面接道場

外部の目を通して、教育学部学生に対する期待や要望を学ぶ機会が特別に設けられています。それが「面接道場」です。人生の達人である学部評価委員の方々が、面接を通して社会人としての基本的な資質を伝授していただきます。学内で事前指導も行われます。



学校教育実習Ⅴ

学校教育実習Ⅴ (後期・40時間・1単位)

学校教育実習Ⅲ・Ⅳとは異なる校種での教育実習です。学齢期にある子どもを「成長」「発達」の総体として捉え、より豊かな子ども理解を促します。なお、実習を行う校種は学生の主専攻と副専攻の組み合わせによって異なります。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
卒論		◎題目提出締切(指導教員に提出)								◎提出		
教課		◎願書提出 ◎教師力パワーアップセミナー		◎一次試験 ◎合格発表		◎二次試験 ◎合格発表			◎教師力パワーアップセミナー(未来へむけて)		◎各教育委員会による合格者研修	◎勤務校決定 ◎講師採用の連絡
その他	◎在学生ガイダンス ◎健康診断	◎学校教育実習VI ★教職志向・進路・取得予定の免許状調査			◎発展期セミナー ◎在学生ガイダンス		◎さらに自分を磨く基礎体験(学校体験を中心に)			◎免許状申請手続き ◎プロフィールシート(PS)作成説明会 ★PS入力(Web) ◎1000時間体験学習修時間認定締切り		◎卒業式[PS返却]
★教採・就職活動で変化がある度に就職支援室に報告する。また教師力育成総合支援システムにも同じ内容を入力する。												

学校教育実践研究VI

学校教育実習VI(前期・40時間・1単位)
それぞれの教職志向に対応し、主体的に選択する学校教育実習科目です。さらに深めたい学習内容や取得したい免許状に基づき、対応した深化型あるいは副免許型の実習タイプを選択します。

教育情報入力

これらの情報は、同学年や全国の動向などをふまえ、みなさんの就職支援を行う上で有益な情報となります。たとえば、あなたの現在の履修状況と進路希望とのより良い組み合わせが発見されるかもしれません。また、教員採用試験を受験する予定の県の具体的な動向をブログシステムで発信したり、就職を希望する県教委から依頼があった際に、素早く連絡して就職につなげることもできます。

卒論

- ・教員採用試験と並行して早めに始める!
→採用試験の面接でも役立つ!
- ・本をたくさん読む!
- ・ゼミ生同士で読み合う!
- ・計画的に進める!
- ・問いを追求し続ける!
- ・提出は余裕をもって早めに!
- ・卒論発表では、抄録集を読まない!

教員採用試験対策

<教師力パワーアップセミナー>(希望者のみ)

- 4月~7月の一次試験前まで隔週の水曜日午後5時に実施
- ◎主に面接(集団・個人)、集団討論の練習
 - ◎教育学部の教員や学外の教育関係に携わっている方が面接官をさせていただきます。ここでのアドバイスはとても重要。
 - ◎7月には本番の一次試験と同じ方法で集団面接・討論が行われます。

<教育実践応用セミナー 前期月曜9・10時限>

- ◎面接の基礎(お辞儀、声の出し方、イスへの座り方、話す姿勢)から指導。
- ◎基本例題への回答の仕方を学生同士で練習。基本例題は学部情報ブログでチェックします。
- ◎セミナーの内容は個人面接→集団面接→集団討論→模擬授業(ロールプレイを含む)→集団面接・討論と変わります。

<就職支援室>

- ◎日替わりセミナー(就職・受験相談、願書の添削、教職時事セミナー、マナーアップセミナー等)
- ◎証明写真の試し撮り、面接の様子を撮影してくれるサービスを開始。
- ◎夏季休業中も、二次試験対策を実施

<その他>

- ◎教員採用試験受験ハンドブックをチェックする。
- ◎学部情報ブログをチェックする。
(教採情報が日々更新!)



教師力パワーアップセミナー(未来に向けて)

このセミナーは採用試験に合格した人、不合格だったけれども講師として頑張ろうと考えている人、つまり来年の4月から教壇に立つ皆さんの未来に向けてサポートするものです。学級担任を想定した「学級開き」の模擬授業や模擬職員会議、中堅教員との交流会を通して皆さんの教師力をさらにアップさせます。(希望者のみ)

◎教員採用試験 先輩からのアドバイス◎

- ◆受験する都道府県を早めに決め、出題傾向を分析
- ◆試験問題にはヤマをはらずに、分析結果をまんべんなく
- ◆二次対策(面接、実技など)も早めに
- ◆提出物は早めに作成、必ずコピー、早めに提出。必ず誰かに読んでもらう
- ◆問題集・参考書はあれこれ手をつけても意味がない。同じものを何回も
- ◆先輩のアドバイス、体験談は何よりも貴重
- ◆自分の試験勉強のリズムを早く見つける(息抜きの時間も必要)
- ◆友達の良いところはどんどん真似して取り入れる(仲間は大切)

卒業生の声

大学生活を振り返って

音楽教育専攻 持田 諒子

大学生活を振り返ってみると、私は1000時間体験で学んだことが自分にとって大きかったと感じています。

私は大学で音楽教育を専攻し、音楽の専門性を高めるために演奏技術と音楽知識の修得に励みました。その一方で、多くの子どもと触れ合う時間をつくりたいと思い、積極的に1000時間体験に申し込みました。例えば、ジュニア吹奏楽団の運営と指導を行う活動に参加し、挨拶や返事、身の回りの整頓といった団体行動の基本を教えました。音楽を教える前に、子どもの学ぶ姿勢や学びやすい環境を作ることが重要であると知りました。また特別支援学校の学童クラブのボランティア活動を行い、表情や体全体を使って子どもとコミュニケーションを図る体験をしました。始めは、どのように子どもと関わったらいいのか分らず、頭で考えて行動していましたが、そんな私にお構いなしに体でぶつかってくる子どもたちを見て、自然と私も思いっきり体で子どもとぶつかっていくようになりました。

このように、学外に出て自分の力を試していく中で、音楽だけではなく、子どもと接することにも自信を持てるようになりました。私は今年度、鳥根県の中学校音楽科の教員に採用されました。春からは教師として子どもの前に立ちます。大学生活で様々な子どもと出会い、多くのことを教えてもらいました。大学での経験を活かしつつ、学校現場でも学び続ける姿勢を大切に、子ども一人ひとりに寄り添うことのできる教員を目指したいと思います。



1日30時間

言語教育専攻 英語教育コース 野村 岳

「絶対に先生になる。」そう思い、鳥根大学教育学部に入學してきてからも卒業する時が目の前に控えています。先生になりたいというこの思いは4年間少しもぶれることなく学生生活を過ごしてきました。

この4年間、専門の授業はもちろん、1000時間体験など様々なことに取り組んできました。他にも自主的にボランティアに参加するなど本当に多くのことを体験させていただきました。どれも充実したものばかりでしたが、それと同じくらいに辛いことや苦しいことがありました。

それでも乗り越えることができた理由としては2つあるように思います。1つは「先生になる」とまわりの人に言っていたからだだと思います。言っておきながら実現できなければ恥ずかしい、こうして自分の目標から逃げないようにしていました。もうひとつは、あることを心がけてきたからだだと思います。「1日24時間じゃ足りないくらい、何事にも一生懸命に頑張らなさい。」これは、1年生の時に大学の先生がくださった言葉です。この言葉は私に頑張ることの素晴らしさを教えてくれました。目の前にあることはすべて自分が目標を達成するためのものであり、辛く苦しいことほど、頑張って乗り越えた先に真の喜びが待っていることを感じさせてくれました。

春から、兵庫県の中学校で英語教員として働くことになりました。これからも変わらず、目の前のことに一生懸命になって、今度は生徒と一緒に頑張った後の真の喜びを感じられるような先生になりたいと思います。



学び舎での成長

初等教育開発専攻 鷹谷 知子

島根大学に入学してからの4年間はあっという間でした。私は兵庫県から島根県に来たので、入学当初は「一人暮らしは大丈夫かな?友達はあるかな?」といった不安でいっぱいでした。しかしながら教育学部で学び、過ごしていくうちにそうした不安はなくなり、楽しさへと変わっていきました。

教育学部に入学してよかったと思うところは、学年を超えて人の輪が広がっていくことです。島根大学の教育学部では体験活動が充実しており、私はこの4年間で「体験学修ピア・サポーター」という学内資格を取ることができました。各学校での学習支援やサンレイクでのボランティア活動といった様々な体験活動を、4年間を通して行うことで、学科が違う学生や先生方、地域の方々と触れあうことができます。それによって人の温かさを感じたり、多様な考え方を学んだり、新たな発見をしたりする中で、試行錯誤しながらも自分自身、成長することができました。また、教育学部ではほとんどの学生が目標を持って入学してくるので、同じ目標においてはもちろんのこと、違う目標でもそれぞれの目標に向かって、お互いに支え合いながら学んでいくことができました。

私は兵庫県の小学校教員採用選考試験に合格することができ、春からは教員として教壇に立ちます。不安もありますが、やはり子どもと関わりながら過ごすことができるという楽しみの方が大きいです。それはこの4年間で、自分の目標と学修とを結びつけながら、大学を過ごせたからだと思います。大学生活で学んできたことや経験を活かしながら、これからも目標を持って努力をし、頑張っていきたいと思っています。



人+人=出会い

初等教育開発専攻 宮廻 尚太

大学生活において、私が自身をもって頑張ったと言えるのは1000時間体験活動だと思います。私は主に社会教育施設で子ども達と寝食を共にし、野外活動を行う体験活動を行ってきました。この活動には毎回たくさん子ども達が参加します。参加する度に新たな「出会い」があり、その度に学ぶべきこともたくさんあったように思います。

大学生活には様々な「出会い」があります。たくさん子ども達、大学の先生方、先輩・後輩、地域の方々、施設の方々、そして、同じ県・異なる県出身の教育学部の仲間達。この様々な「出会い」があったからこそ私は多くのことを学び、自身の成長へとつなげることができたのだと思います。

人にしたことはきっと返ってきます。これは社会教育施設で出会った子ども達から学んだことです。それは良い意味でも、悪い意味でも自分に対してしたことでもきっとそうです。子ども達に丁寧に話すように心掛ければ、彼らも同じように話しかけてきてくれます。自分を甘やかせば、それ相応の大学生活になってしまいます。

だからこそ、たくさんの人との「出会い」の中でどんな自分になりたいのかを考えながら行動することが大切であると私は思います。

私は大学生活を通していつまでも他から学び続ける自分でありたいと考えました。来年度から私は岡山県の小学校で教員として働きます。新たな「出会い」に期待し、そこから学べることを学び、更なる成長を目指して努力に励んでいきたいです。



卒業生の声

やりきったと思える日々を

初等教育開発専攻 三島 尚子

私にとってこの島根大学で過ごした四年間は、とても楽しく充実した日々でした。そして、友達や先生方、ボランティア先の社会人の方、子どもたち、地域の方など、さまざまな出会いと関わりの中で、多くのことを学ばせていただいたと思っています。

私はこの四年間、特に1000時間体験学修プログラムにおけるボランティア活動に力を入れて学習支援を行う中で、学校現場の様子や教師の児童との関わり方などを見て感じ、知ることができた貴重な体験ができました。また、キャンプといった野外活動を子どもたちと共に行う活動では、子どもとのかかわり方を学ぶことができたと共に、子どもたちのもつ力のすごさを改めて感じ、教師になりたいとより強く思うようになりました。また、活動に対して目標を決めて臨み、自分自身について考える機会も多くありました。これにより、自分の良さや足りない部分を知ることができ、変わりたいと思って取り組むことで、少しずつ成長していくことができたと思います。

私は四月からは、岡山市の小学校教諭として勤務することになります。期待と不安がありますが、これまで学んできたことを大切に、これからも子どもたちと日々成長し続けていくことができるよう、励みたいと思います。大学生活は、自分の夢に向けて、そして自分を高めるためにやりたいことができる時間が多くあります。しかし、自分で動かなければなんとなく過ぎていく学生生活になってしまうかもしれません。ぜひ新入生のみなさんにも何か四年間で「これは頑張った」と思えるものを見つけ、充実した大学生活を送ってほしいと思います。きっとそのことが、自分の自信と今後につながると思います。



自分で選択したものの積み重ね

特別支援教育専攻 中村 友美

振り返ってみると、大学4年間は自分で選択したものの積み重ねでできているなど感じています。講義や1000時間体験、部活動にアルバイト等、10人いれば10通りの大学生活があります。その中で私が大切に積み重ねてきたものは、人との出会いでした。私は地元が滋賀県と少し離れた場所のため、大学では知り合いもなく、入学当初は本当に不安でいっぱいでした。そんな私も時間が経つにつれ、少しずつ友人ができ、1000時間体験を通して多くの子どもたちや地域の方々とお会いすることができました。

教育学部では、自ら選択して活動に参加できたり、実習を通して授業実践を行ったりと教員になるための学びの場がたくさんあります。活動や実習では、楽しいことはもちろんですが、苦しいことや悩みもありました。私は、周りの友人が上手に子どもたちと関わっているのを見ると、友人の良いところばかり見えてきて、自分への不満や不安ばかりが募っていたことがありました。しかし目の前には、ありのままの私と向き合ってくれる子どもたちや悩みや不安を相談できる友人、活動先で出会った方々、大学の先生の存在がありました。その一つずつの出会いを通して、まずは私自身が強い思いをもち、相手と真剣に向きあうその姿勢が大切なのだと感じるできるようになりました。私は4月から滋賀県の小学校教員として働くこととなりましたが、4年間の出会いの積み重ねを大切にまた新たに出会う子どもたちと一緒に、笑顔あふれるクラスを作っていきたいです。



後援会活動の概要

平成23年度

1 学生教育活動の支援

- ①1,000時間体験学修,面接道場,学生フォーラム,教師力パワーアップセミナー,びびっと広場など学生教育活動事業経費への助成



面接道場

- ②ICTルームの書籍整備への助成



明るくて快適な
ICTルーム 金魚鉢

2 教育実習の支援

- ①教育実習を充実させるため,各実習受入校の実習経費への助成(学生が実習で使用する文房具や教材等への助成)
- ②教育実習ワークシート作成への助成

3 就職活動の支援

- ①教員志望学生の援助
教員採用試験に向けての対策と指導に関する経費及び各都道府県教育委員会への就職依頼に関する経費への助成
- ②企業志望学生の支援
就職ガイダンスを開催し,企業就職関連の各種セミナー等を行なう経費及び就職担当教員等を中心に,県内外へ出向いての企業就職開拓活動経費への助成
- ③就職支援室の書籍整備などへの助成

4 国際交流活動の支援

釜山教育大学校(韓国)との交流20周年記念事業等への助成,テキサス大学,ミシガン大学学生との交流活動への助成,日韓学術交流セミナー実施への助成

5 教育環境整備の支援

構内の教育環境の改善を図り,学生の生活環境の向上及び充実のための施設整備経費への助成(トイレ内整備,玄関の花壇整備など)



正面入口前広場の花や観葉樹

6 広報事業の実施

後援会事業活動報告及び学部の教育・研究活動並びに学生生活の様子等をお知らせするための後援会「機関誌」を発行

7 課外活動の支援

在学中における各種部活動,大学祭,寮祭,中四国大学学生競技大会参加等の活動費への助成



就職支援室

平成23年度

教育学部後援会幹事名簿

地区	氏名	課程	学生氏名	備考
隠岐郡	木村 一則	院 1	木村 佳則	
松江市	飯塚 節子	学校教育 4	飯塚 洋平	
境港市	安達 義昭	学校教育 4	安達 宏樹	
松江市	古川 康徳	学校教育 4	古川 花乃	会計幹事
出雲市	持田 剛	学校教育4	持田 諒子	副会長
米子市	大場 明夫	学校教育 3	大場 智子	
松江市	奥村 忠孝	学校教育 3	奥村 裕孝	監事
雲南市	景山 博司	学校教育 3	景山 雄平	
大田市	吉田 芳英	学校教育 3	吉田 彩乃	
米子市	山中 茂樹	学校教育 2	山中 詩織	副会長
米子市	村上 忠祐	学校教育 2	村上 祐太	
松江市	瀬尾 欣也	学校教育 2	瀬尾 勇樹	
松江市	杉原 英明	学校教育 2	杉原杏由美	
雲南市	熱田 正規	学校教育 2	熱田 千帆	監事
斐川町	勝部 宏悦	学校教育 2	勝部さおり	会長
松江市	安食 剛	学校教育 1	安食みのり	
松江市	板倉 誠	学校教育 1	板倉 直哉	
松江市	角田 信	学校教育 1	角田 仁志	
松江市	曾田 稔	学校教育 1	曾田 文夏	
出雲市	原 浩幸	学校教育 1	原 久恵	

(20名/順不同)

- 発行 島根大学教育学部後援会
E-mail kyo-soumu@jn.shimane-u.ac.jp
ホームページURL <http://www.edu.shimane-u.ac.jp/edu/koenkai.html>
- 発行日 平成24年4月1日
- 発行所 島根大学教育学部内 教育学部後援会事務局
- 所在地 〒690-8504 松江市西川津町1060
TEL (0852-32-6251) FAX (0852-32-6259)
- 印刷 ぷりんとはうすM2エムツー